水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

多岐にわたる陽光丸の調査航海

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 船戸, 健次 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008565

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

調査航海のエピソード

― 多岐にわたる陽光丸の調査航海 ―

陽光丸船長　船戸　健次

まず、平成22年度第２回目の航海で行った大型クラゲの分布調査の模様をご紹介します。近年韓国や日本海において漁業被害を与え、問題となっている大型クラゲについて、分布調査を５月18日から24日までの７日間、九州西の海域と東シナ海の北部海域において行いました。

今回の調査では、プランクトンネットを使ってクラゲの採集を試み、目視でもクラゲが出現しているか調べました。併せて、流向・流速や水温・塩分などの海洋環境を観測し、動物プランクトンなどを採集しました。調査期間中は、停滞前線の影響で視界が悪い日や南風の強い日もありましたが、順調に調査を行うことができました。

調査海域では漁船の操業も少なかったため、順調に調査を進めることができました。今回の調査ではミズクラゲはとれましたが、大型クラゲは捕れず、目視調査によっても大型クラゲは確認できませんでした。ただし、日本近海での大型クラゲの出現は時期的にはもう少し遅い６月頃から見られることが多いため、今年大型クラゲがあまり出現しないかどうかは予断を許しません。陽光丸による調査以外にも下関と韓国の釜山を行き来する国際フェリーを使った大型クラゲの分布調査などを行っており、これらの調査で得られた情報はいち早く漁業者にお知らせしたり、大型クラゲの出現を精度よく予測する技術の開発に役立てられています。これからも研究者が進めるいろいろな調査が漁業の現場に役立てられていることを意識しつつ、計画通りの調査が行えるよう調査船の運航を行っていきたいと思います。

次に、トロールなどを用いた浮魚類魚群量調査を行った陽光丸第３次航海では、CTD（塩分、水温、水深を測定する機械）による海洋観測、ノルパックネット（北太平洋標準ネット）によるプランクトンの採集（写真１）、ニューストンネット（表層の仔魚を採集するネット）による仔魚（主にカタクチイワシのシラス）の採集、中層トロール（船の後ろから曳く円錐形の網、SEIZO網）による稚幼魚（主にマアジ）の採集を行いました。中層トロールより採集されたマアジの稚幼魚は船上で計数、計測します。なお中層トロールによる調査は、東シナ海から日本海西部にかけての広い海域を、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター、日本海区水産研究所、西海区水産研究所の４機関で分担して行われ、その調査結果は、マアジ対馬暖流系群の新規加入量（その年に産まれたマアジの資源尾数）の指標値として用いられます。

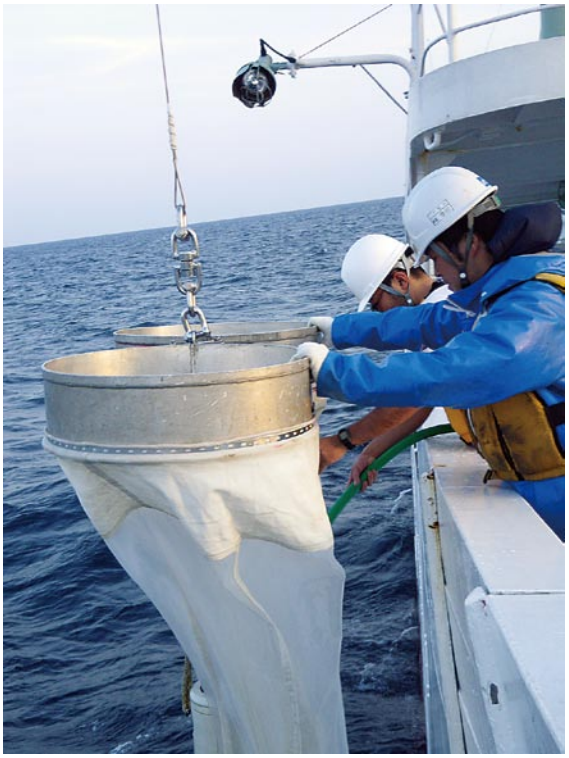

写真１

第４次航海では九州の西の海域に分布するタチウオ、アカムツ等の底魚類の成長や成熟といった生態情報を得て、資源評価の向上に役立てることを目的に着底トロールなどの調査を行いました。調査はこれまで網を引いたことのないやや深い海域でも行ったことから、網が引っかからないように海底の状況に細心の注意を払いました。調査地点によりとれた魚種の組成は異なりますが、全般的にタチウオはあまり採れませんでしたが、ワキヤハタ、アカムツ等の水揚げの対象となる魚が採集できました。東シナ海は日中韓３カ国が利用する国際的な漁場です。これらの調査は東シナ海で日中韓３カ国が利用する魚の共同管理に向けた科学的な知見として活用されます。